

押寄せる賀状の波

「年賀郵便はお早く」と宣傳

待機の平郵便局

平郵便局の郵便物取扱数は廿日からの年賀郵便も迫つたので日毎に増加の傾向を見せて来たので局では早くも賀状洪水に備へる爲め近く「年賀状はお早くお出し下さい」と自動捺印機、立看板、ビラ、ポスター等を動員して市内へ宣傳する筈であるが昨年度の年賀郵便取扱期間に平局に殺倒した郵便物は僅か十六日間に二百六十二萬五千二百三十四通、一日最高数は十二月廿九日の四十二萬二千四百八十九通で平常一日に二萬餘を取扱ふ同局は廿九日だけで整理した事となり局内各室共葉書の山となるので局員は正月気分も他に不眠不休物凄しい人間の整理機械化する状態、今から手具腰ひいて待機の姿勢である

僅かの淘汰で

助かる底曳船

中山水試場長の談

九年八月農林省の取締方針により本縣の底曳網漁船は僅に三十艘しか残らず實に百八艘が整理される運命にあり當業者は死活問題として農林省に緩和の陳情を行つてゐた事既報の如く縣でも百三十八艘の一年の漁獲高は百五十萬圓に達し更にこれを原料としての製品蒲鉾類は五十萬圓を算し合計二百萬圓といふ甚大な漁業なので農林省に交渉中山水産試験場長が主となり縣全體の整理に努めつゝあつた結果僅に十五隻を廢船處分

子供の祝式

愛婦會の催し

愛國婦人會平分會は来る廿三日の皇太子殿下御誕生日を卜して子供の祝日とし町内各小學校兒童の書方、圖書製作品展を開催優秀兒童を賞與することになつたが尚同日は各幼稚園々兒に菓子配ることになつた

年頭の辭にも

選舉肅正強調

平町で疾くも準備

平町は過般の縣會議員選舉に於ける肅正運動の實績に鑑み更に來る衆議員總選舉を目標とする肅正運動を實施すべく夫々計畫中の處新年に際し新聞雜誌並に諸機關を通じて年頭所感を述べると同時に肅正の必要を力説強調すべく又年末年始に於ける挨拶状にも之が肅正の趣旨を印刷表示して今後益々肅正の機運を醸成効果を擧げることになつた

盜伐防止

平窪村で對策

平窪村林野保護組合は同村公有林に從來寒に向ふに連れて盜伐多くなる傾向に鑑み今七日區長並に關係者が會合し盜伐防止策を講じ向う後は同公有林より擧る純利益を以つて貧困者救済に乗り出すことになつた

皇太子殿下の

御降誕日を奉祝

郡教育部會の催し

石城郡教育部會は来る二十三日の皇太子殿下御降誕日を子供供の祝日として廣く國家的慶祝の意を表するため

映畫會、童話會、學藝會
一、不遇兒童安の會
一、奉祝綴方、書方、童話等の懸賞募集

支部發會

きのう役員も決定

郡下動力利用組摺業組合の平支部創立總會は昨六日午前十一時より丸友樓上に開會規約制定、支部經費として許可書一枚毎に年五十錢を組合員より徴收する事を決定、支部役員は左の如く決定した

(支部長)鹿島佐藤吉郎
(副支部長)玉川齊藤未吉
好間高木啓作(會計)平農
倉佐藤武男(幹事)磐崎磯山寅治 高久猪狩定興
来る十日から

同情週間

救濟費を募集

来る十日からの同情週間に際して平町助成會は愛婦分會と合同十二日より四日間同情袋を各戸に配布して歳末貧困者救濟費を募集する

殉職水兵の

弔慰金

不愛婦會で募集

愛國婦人會平分會は驅逐艦殉職者の弔慰金を募集することになつたがこれは去る九月廿六日日本州東方海上に於て折柄の颱風と激浪を冒して戦技演習中の我が海軍第四艦隊驅逐艦初雪、夕霧陸月、菊月及航突母艦風翔

平職業紹介所報告

人を求める方

△女中 卅才迄 給料面談
△女中 廿才迄 年給三五
四〇圓

△女中 廿才迄 月給六圓
△トラツク助手 廿五才迄
月給十圓

△配達人 卅才迄 日給七
〇：一圓

△農夫兼配達 廿五才迄
日給六圓

△料理人 四十才迄 月給
十五圓外小遣

△出前持 廿二才迄 給料
面談

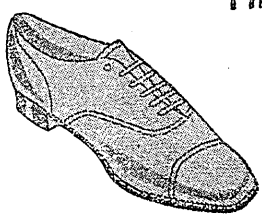
△職を求める方
△集金人 卅四才 中三修
△鐵工 十八才 尋卒
△鐵工 十七才 高卒

お子様の靴

常に新型！ 豊富な良品！
と御評判の……

キクチのサービス

是非お買い上げ下さい



キクチ靴店

平・停車場通り
電話六九五番

補装完成！ 雨除、日除に 敷島のヒヨケを
道路完成！ 伸縮自在の

官有地に家を建て

大平樂の廿三戸

けふ土木監督所長から 立退き方を嚴重警告

江名町大字中之作折戸竹中豊外廿二名は同字の官有地に法規をわきまはず家屋並に倉庫を建てたるを平土木監督所で探知、小林所長がこの程當該者に對し來る十日までに撤去を嚴命したのに對し驚愕した前記竹中らには目下同地に埋立工事中の小名濱町小野晋平氏の埋立完了するまで移轉五ヶ月延期方を陳情したが本七日小林所長は埋立工事中の本月十五日まで竣功する土地あるを以つて十二月末までに買入豫約の上撤去移轉さる様嚴重に通告した

増産計劃の 昭和入絹

來春三月竣工

錦村昭和入絹工場は現在毎日十噸づつの人絹を生産してゐるが更に工場を擴張して日産十五噸に生産率を擧げることになり現工場南側に目下増築工事を急いでゐる、竣工は二月下旬で同時に操業を開始する筈、尙これを動かす爲に別に五千キロの發電能力ある火力發電所の建築に着手し、男女工七百名の増員を行ふことになり目下募集中

狂つた大年増

岩沼から汽車で乗越し

平署に保護さる

昨夜八時頃上り平着列車から引きをろされ平署に保護された大年増の狂女があつた、この女は宮城縣伊具郡板野村大字長沼引地トミヨ(三七)で昨年子供三人ある仲を夫と別れ生家へ歸つてゐたが家人が危介者扱ひにし散々惡罵されるので居辛くなりあれや之れやを苦に精

神に異常を呈して家出、同縣名取郡岩沼町料理業田舎家事渡邊方に酌婦となつて雇はれたが遊興客を殆んど無銭で逃がして了ふので主人も始末に困り昨六日主人が切符を買つて郷里に歸すべく乗車させたが同女は實家に歸るのが嫌で横須賀にゐる兄を頼つて乗り越して

來たのを車掌に發見され平署に降ろされたもので平署では實兄佐藤義弘宛に引取りを打電した

「病氣」の偽電で 點呼に不參

白米詐欺も暴れた

宮の圖太い坑夫

内郷村大字綴居住元警城炭礦坑夫伊達郡石戸村大字石田生高島豊次(八)は去月郷里に執行された簡閱點呼に病氣を理由にして打電不參加のため陸軍召集規則違反にて七日平署に檢舉され取調への結果同人は去月一日より廿五日迄の間既に購買濟みの磐炭會社の傳票を使用し同社購買部から白米、砂糖その他廿五圓六十錢を詐取したと發覺した

事故防止 主任會で對策

平署では來る十二日午前十時下四倉漁業組合消防組員等出動捜査中

利いた宣傳

納入者續出

平町滞納整理進出

平町に於ける町税滞納は二百二十八軒三千餘圓に上り差押へ處分の上昨日競賣に附したが七日までの納附者續出して僅かに廿一軒に減少好成绩を示した

想普及の結果兒童の家庭にまで好影響を及ぼしたもので小學校兒童が多く納附に來て係員を涙ぐました、因にこの成績に鑑み町當局は今後共兒童の納税思想普及に努力一般の注意を喚起することに

明日のラジオ

今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
傳説物語「分福茶釜」高崎童話教育研究會前橋
後七、三〇 三題噺「女優觀音様」笙「昔々亭桃太郎」
後七、五五 ギターとカステネット獨奏「マヌエラ」デル・リオ ホアキン・ロカ
後八、二〇 浪花節「慶安太平記」木村重勝
後九、〇〇 時事解説「明年度の豫算に就て」牧野輝智
後九、三〇 時報「ニュー・ス」明の歴史 氣象通報 番組預告
明日の部
後九、三〇 ラヂオ世界見物「イスパニヤ、ポルトガ

朝鮮から 悴やあーい

平署へ捜査願ひ
朝鮮慶南道昌寧郡樓房面巨南里基湖長男金乙仙(三)は昭和六年内地に渡航以來行方不明になつてゐたが最近平地方に徘徊の形跡ありますと父親の基湖さんから捜査の上嚴重設論を願ひ出た

黒字づくめの平驛 去月中の取扱成績

平驛の十一月中に於ける列車の乗降客数は乗者が三萬九千七百三十三人、降者は三萬八千百十三人で昨年同様に比較すると乗車は七十三名減じたが降者は五百八十七人増加して居り去月の収入額は二萬四千四百二十五錢、昨年より千八百八十六圓七錢と増加して居る、また一般市況の好轉に依る貨物の取扱数は發送高が七千七百三十三噸、到着一萬七千七百七十五噸で昨年より發送が千四百四十四噸、到着が三千四百三十噸といづれも増加して居るので自然貨物収入高も去月は一萬五千五百七圓三十錢で昨年よりは二千五百五十五圓三十錢と云ふ黒字を現はした

名畫「上映」 平町の前人氣

石城映畫研究會はかつて

平町各校の 會計主任會

平町各小學校並に平商業學校は今七日午前九時より平第二小學校で會計主任會を開き來年度豫算基礎調査を行つた

平町滞納整理進出

平町に於ける町税滞納は二百二十八軒三千餘圓に上り差押へ處分の上昨日競賣に附したが七日までの納附者續出して僅かに廿一軒に減少好成绩を示した



明治太平記

(上段及上巻)

(作) 寺島經史

第二百九十四回

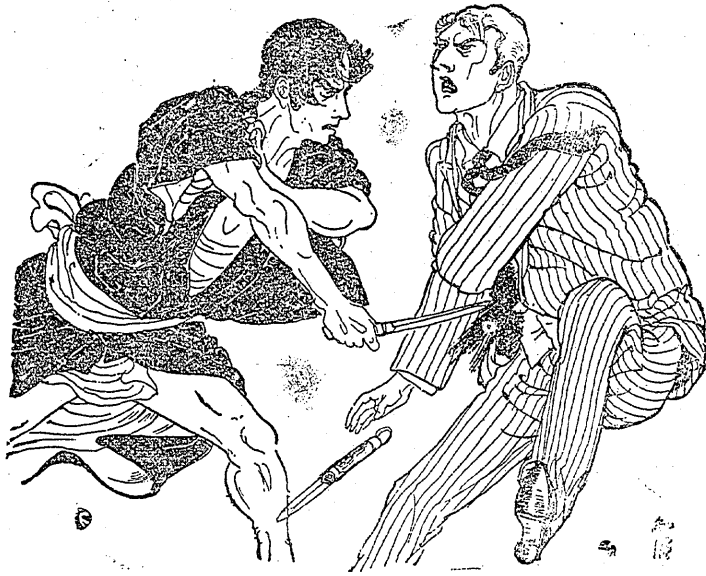
生者死者 (十)

『政府當路者に不平不満があるなら、機會を得て申述べろ、直接行動は成らぬ』
 『黙れ、おぬしの隱健主義に合意は出来ぬわ。いおれを、このまゝ尾張坊までやれ』

このとき、大志賀にいさゝかの隙があつたものか、あつといふまに窮鼠のごときウエルズは、死物狂ひで馬車を飛びおりました。
 『おのれ!』

大志賀もついでに飛びおりました。いまは萬事休す……尾張坊まで進行して、おとわの手で仇討をさしてやりたいといふ助太刀の苦心もこれで水の泡だつた。彼は二重三重の激怒に身を顛はしながら、取まく群衆のために逃げ路を失つてゐるウエルズの背後に迫り
 『卑怯者!』
 と、きびしくさげんだ。ついでに切迫する感情の顛えをおさへながら
 『ウエルズ、逃げ隠れはもう出来ぬぞ、衆人のおのれの逃げ口を絶つてをるわ』

『……』
 ウエルズもそれを観念したもので、くるり向き直つた。しかも手には護身用の海軍ナイフ……
 『お、覺悟はよいな。さアいまこそ云つてやらう。ウエルズ、おのれはかつて雇



ルズの面前にひらめいた。
 『うむ』
 奇怪な、野獸のうめきに似たものを發して、ウエルズは矢庭に大志賀に襲ひかゝつた。しかし、逆上してをるウエルズの手先は狂つて、海軍ナイフは徒らに空をついた。
 『イダグレスの武官の腕はたつたそれだけか』
 大志賀はそれを見送つて嘲笑を投げた。
 『おのれ!』
 ウエルズは、ふたゝびかまを直して躍りかゝつたが、そのときは素浪人大志

人なる日本人を無法にも殺したことがあらう』
 『……』
 『その青年、神奈川の百姓孫右衛門の伴孫吉の仇をけふこの場で妹なるおとわに代つて報めてやる。觀念いたせ』
 大志賀のあひ首は、ウエ

賀の右手のあひ首に、脇腹をグサと突かれてもろくもその場に崩折れてしまつた
 『うわッ!』
 といふ群衆の歡聲……そのうちに副島のいかめしい聲が交つてゐた。
 『おのれ、狼藉者!』
 しかし、さうも副島が

づか／＼大志賀の身邊に迫り、耳もとに口を寄せてさゝやいた。
 『往けい、のがれる。あと是我輩が引うけた。』

新橋たもとの狼籍のあとを副島と茂平次にまかして、大志賀は宙を飛ばやうにして、銀座尾張坊までやつて来た。
 あとを追ふてくる一人の邏卒もなかつた。
 彼は、血をのんだあひ首を握り血しぶきをあびたまゝ、白晝大道を駆てきた自分の大膽さにおどろいた。け

れどこれはみな副島のおかげたとわかると友情のあたゝかさを自然頰に感ずるのだつた。

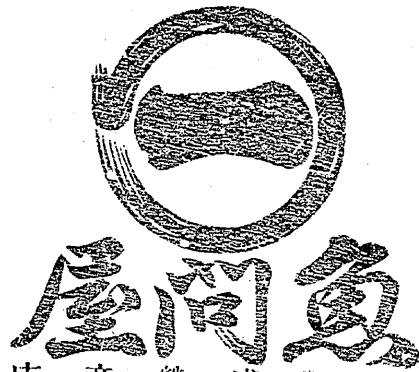
——さうだ。一刻もはやい、おとわに、ウエルズを討取つたことを知らしてよろこばしてやらう。

彼は、尾張坊角から銀座うらへ……そして、いろは長屋の、藝者お銀の家の戸口に立つた。

七五三の

祝 御贈答に

鯉節



店商榮盛賀志 (三二一電) 目丁四平

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多 仕舞白土會

電話一二七番

祝七五三

御寫し遊ばせ

お子様方の

可愛いお姿を

御寫眞に!

當日は御祝として焼増壹枚御進呈いたします

平町寫眞師組合

組合員名(いろは順)

- 林 寫眞館
- 戸田 寫眞館
- 岡山 寫眞館
- 大野 寫眞館
- 太陽 寫眞館
- 中島 寫眞館
- ライト 寫眞館
- 青木 寫眞館
- アサヒ 寫眞館
- 齊藤 寫眞館
- サクラ 寫眞館
- 三光館 スタジオ

七五三

お祝の御答禮に

かまぼこ

御進の致します

紅白かまぼこ

細工物其の他色々

平町一丁目

不味屋

電話一四一番

●年商戦迫る! 店頭宣傳と 敷島の切ハタ ●
 ●末商戦迫る! 顧客吸集策に